

(仮称) 医科大学院大学準備委員会 (第1回) 会議録 (議事要旨)

日 時	令和4年3月29日(火) 午後4時00分から午後5時20分まで
場 所	グランディエール ブケトーカイ (24F コスモス)
出席者 職・氏名	出席委員:10名(敬称略) 田中一成、伊藤裕、岩井一宏、浦野哲盟、木苗直秀、小林利彦、 中西勝則、宮地良樹、渡邊裕司、渡邊昌子 ※木苗委員はwebによる参加 事務局 知事 川勝平太 副知事 出野勉 静岡県参与 山口重則 健康福祉部長 石田貴 健康福祉部部長代理 八木敏裕 健康福祉部理事 鈴木宏幸 健康福祉部医療局長 後藤雄介 健康福祉部健康局長 田中宣幸 ほか健康福祉部職員
議 題	1 静岡県の地域医療 2 (仮称) 医科大学院大学に期待する効果 3 当委員会の目的及び審議の進め方 4 大学院(医学分野)の設置基準等
配付資料	議事次第 (仮称) 医科大学院大学準備委員会委員名簿 資料1 静岡県の地域医療 資料2 (仮称) 医科大学院大学に期待する効果 資料3 当委員会の目的及び審議の進め方 資料4 大学院(医学分野)の設置基準等 参考資料1 (仮称) 医科大学院大学準備委員会設置要綱 (別冊) 資料1 関連図表

1 審議内容

石田健康福祉部長から資料1～4、参考資料1及び(別冊)資料1により「静岡県の地域医療」、「(仮称) 医科大学院大学に期待する効果」、「当委員会の目的及び審議の進め方」及び「大学院(医学分野)の設置基準等」について説明した後、各委員による議論を行った。

(1) 主な意見

ア 独創的な学問・研究拠点の形成

- ・医学と医療は表裏一体で、医学がなければ医療も発展しない。

- ・医学部のコピーでなく、新しいタイプの大学院大学を目指すべき。
- ・どうすれば人が集められるかという視点から、他の大学院にはない特色を打ち出すべき。
- ・若い人たちはヒューマンサイエンスなど、新しい医療につながる研究を求めている。
- ・ヒューマンバイオロジーをやりながら病気をやれる時代になってきた。
- ・臨床しながらヒトのサンプルで研究ができるのは魅力になる。研究をサポートする体制の構築が必要
- ・浜松医科大学、京都大学、慶応大学等と連携して有意義な研究ができれば、優秀な医師が集まる。
- ・工学部と組み新しいデバイスを作るなど、医学以外の領域との連携が魅力になる。
- ・疾病に加え、予防、健康などに関し、山間部などの地域特性を活かした研究拠点は優位性がある。
- ・高いレベルの研究ができ、教員のサポートも充実させれば、既存の医療分野の壁を越える新しい形の大学院ができる。

イ 優れた臨床研究医の育成

- ・医学的な知識や研究の経験は、医師の実力を伸ばすのに必要
- ・医科大学院ができれば質の高い医師が増える。
- ・病気を治すための研究に意欲を持つ学生は多い。臨床しながら研究できるのは魅力
- ・優秀な教育者、教育がしっかりされた医師を増やすことは大賛成
- ・最近の学生は専門医資格を取得したいが、学位の意味には疑問を持つ人が多い。専門医資格の取得と博士の学位の取得は両立できる。大学院で学位だけでなく専門医資格も取得できれば魅力となる。
- ・学生のニーズに合致した研究領域を設定し、在学中だけでなく、学位取得後も臨床しながら研究を続けることができれば静岡に残る可能性がある。
- ・大学院に入る時の一番の問題は、臨床から離れ、アルバイト生活になって基礎実験をしなくてはならないこと。
- ・大学院生が在学中でも安定した生活をできるようにし、臨床しながら優秀な指導医から指導を受けることができれば研究を続けられる

ウ 研究拠点の形成

- ・疾病に加え、予防、健康などに関し、山間部などの地域特性を活かした研究拠点は優位性がある
- ・他の研究機関や産業界と連携した先進的な臨床研究体制が構築できれば魅力的
- ・臨床しながらヒトのサンプルで研究ができるのは魅力になる。研究をサポートす

る体制の構築が必要

- ・高いレベルの研究ができ、教員のサポートも充実させれば、既存の医療分野の壁を越える新しい形の大学院ができる。

エ 地域医療への貢献

- ・医師の質を高めるための大学院をつくるという考え方が必要
- ・産科や救急科の医師の少なさは、安心、安全と言えるのか疑問
- ・診療科別医師数が全国比 80%未満の科では様々な支障が生じている。静岡県では内科に 70%台が多く、診療科の細分化が進んでいるため、一つの大学で全分野をカバーすることは困難
- ・特に神経内科、アレルギー、リウマチ等の医師が少ないことは重要な問題
- ・内科系の不足分野に浜松医科大学と協力して医師を補充できる構想が必要
- ・静岡県で弱点とされる診療領域の優秀な医師を県立総合病院に集め、コアをつくる。それが魅力になる。
- ・医学部には病院への医師派遣機能があるが、静岡県には医師派遣を担うセンターがないのではないかと。
- ・医学修学研修資金被貸与者の定着が課題。専門医研修の基幹病院を東部、中部で増やして指導医を充実させることが重要
- ・静岡県で専門医資格を取得でき、人材が東部を中心に広がるようなスキームが必要
- ・若い人は外に出ていろんな経験をしたい。県外に出ても戻ってこれる、戻ってきてもいい仕組みづくりが重要
- ・「静岡県に定着したい」「専門医資格を取得したい」という医師が魅力を感じる大学院であることが必要

(2) まとめ

今回委員から出た意見を課題ごとにとりまとめ今後の委員会における審議につなげていくことについて、了承を得た。